

活動・参加についてのグループワーク

大阪府訪問リハビリテーション振興会実務者研修会
2016. 3.5~2016.3.6

課題①: 活動と参加についてどのようなイメージを持っていますか?

1. 参加のイメージ? やりぬくことか多いから...
う). 認知症、聴覚、リハビリ等から...
生活の安定している場合 → 活動や参加のどの部分? 参加? 又、どの部分? 説明?
2. 生活から → 歴史 → 文化等、重点を置く。 } 参加イメージ
地域に合わせた、双職種の参加? } 一度、参加イメージが大事 (正取得)
3. 自主性のある利用者への参加? (外出したくない利用者からどうするか、依頼する) } 身体状況の説明が重要、あつたところから...
4. 活動や参加の向上、心理的負担と、お互いの関係性から... } 継続性、等があること、今後、介護保険制度と関係

課題②: セラピストが活動・参加に向けてどのような視点や働きかけが必要か?

- ① 個別性の高い参加 (背景)
・ 連携 (他職種)
・ 本人からの説明
 - ② 個人の状況を積極的に取りこく
・ 地域資源の活用
・ 利用者自身どう学習
 - ③ 個人の希望を考慮、価値観の理解
- ④
・ 時間の制限、単位数の変更
・ 利用者の理解、柔軟に行う
- 目標と双職種と
合わせていく
・ 思いやりを捨てる

活動・参加についてのグループワーク

大阪府訪問リハビリテーション振興会実務者研修会
2016. 3.5~2016.3.6

課題①: 活動と参加についてどのようなイメージを持っていますか?

- 活動力 - ADL・IADLの中で必要最低限: 日常生活でのササシ活用
- 参加 - 役割・家族と関わり・地域への参加
- 持っている能力で環境へのアプローチ
- スズに直結する部分
- その人らしい・生きがいのようなもの
- 生きがいのようなもの
- リハビリ以外の地域への参加・健康と寿命のアップにつながる
- 残存機能の活用

課題②: セラピストが活動・参加に向けてどのような視点や働きかけが必要か?

- 利用者のバックグラウンドを知る。(趣味・仕事・近所・家族との
かかわり・生活背景など)
- 病気の理解を得てもらう
- 現状の把握(一日の生活)
- 社会資源の認知と提供
- 他種との情報共有・連携
職
- 目標・目的を大事にする
- 説明して納得してもらう
- 利用者の目線になる

活動・参加についてのグループワーク

大阪府訪問リハビリテーション振興会実務者研修会
2016. 3.5~2016.3.6

課題①: 活動と参加についてどのようなイメージを持っていますか?

活動: 個人

ADL, IADL (どのように生活あるか?)

個人レベルで解決出来ることもある.

能力をそこ上げる.

実現するために日常していること.

参加: 社会的活動, いることによる参加

↳ 社会参加, しゅみ活動

個人レベルで解決出来ないこともあるのでアプローチしにくい. 難しい.

今ある社会資源に合わせる.

出発する所から社会に出ていくことで

参加につながる.

活動・参加: お互い関係している.

課題②: セラピストが活動・参加に向けてどのような視点や働きかけが必要か?

◦ あるものを合わせるのではなく, 本人様の能力を活かして場を作る. 準備作業

(カズ・カマウ)

◦ 本人様につきまわって一緒に参加して可能な幅を広げる.

① 利用者様の生活背景, 地域についてもと知る必要がある.

◦ 地域の多職種で情報共有して小情報を広げる.

◦ 小情報収集 (利用者様, 施設, 地域情報) → 多くのことを提供を利用者様に出来る.
(スモールステップを決める).

↳ 少しずつ活動と参加につながる.

◦ 病院では「やてはいけない」ことが家では「あるであろうこと」になるので考えを変える必要.

◦ インフォーマルなサービスの情報も必要.

◦ 多職種での同一のゴール設定.

◦ 施設の中での情報の共有化 → 複数の施設での共有

◦ 制度の理解と, 伝え方の工夫が必要.

↳ 利用者様が十分に理解出来るように利用されていることも必要.

◦ 本人だけでなく家族や他サービス者からの情報から参加のきっかけになることもある.

② リハ会議がなくとも情報共有することで参加のきっかけになる.

◦ 自分の所だけでなく, 地域の同じ施設, つなげている施設の人との関わりがあれば幅は広がる.

活動・参加についてのグループワーク

大阪府訪問リハビリテーション振興会実務者研修会
2016. 3.5~2016.3.6

課題①: 活動と参加についてどのようなイメージを持っていますか?

- ・ 高齢者の活動参加がイメージづらい。
- ・ 生活と混同しがち。個人差が多い
- ・ 入院中には、イメージづらい。訪問して生活現場が見えてくると、
(要支援、難病) 関わりが難しい。
「何をしたらいいの?」
「帰ったらどんな生活か」をイメージすることが重要。
機能・活動・参加に
モニタが足りない。
- ・ 多職種連携がうまくいけば、情報をもとにイメージできるのでは。
「やりたい人は積極的に活動をお勧め。目的の見えない場合は活動・参加が
見えにくい。」

課題②: セラピストが活動・参加に向けてどのような視点や働きかけが必要か?

- ・ 本人が生活に満足している場合、活動・参加は、生活そのものでも
いい。(雇用形でもいい。)
- ・ 無用なサービスがそろそろなくなるように、
メッセージ。

活動・参加についてのグループワーク

大阪府訪問リハビリテーション振興会実務者研修会
2016. 3.5~2016.3.6

課題①: 活動と参加についてどのようなイメージを持っていますか?

<PT 54> 自身 持ちに行き先、ニーズが互いに、極くというところ、7-1とは知っていても、いづれが本当はしらない、^{病院では} 外

<OT 51> 活動参加はあつた前、リハビリ本来の目的の伝わり、理解のほらあえて取り込まれる。FJにたると感じ。Hpcリハビリというゴールには向かいててもたどりかいてない。実践の場(在場)のことやらなければ、(活動参加)

<ST 51> 気がつくが、誰かに手紙を書くという活動参加なんかなと、この研究が感じてる

<投書>

→ 活動参加 → リハの期間の期限つき。今後は地域に橋渡しさせていくのも役割なのかな? リハの
→ 地域に出られないから個別(リハ)が大事 / 大事なことでなく身近な小さなことも大事
★ (まづから考えではこれを周りがわかっていくことが大事 (他職種だけでなく、病院内スタッフも)。)
★ 本質を引継ぎ = 自分だけがして周りが認めてくれていること。

課題②: セラピストが活動・参加に向けてどのような視点や働きかけが必要か?

本人

- 家族から情報収集

- 家族参加

- 福祉用具

- 周囲の人や環境設定 (アシスト)

- 全員が共通認識をもつ

活動・参加についてのグループワーク

大阪府訪問リハビリテーション振興会実務者研修会
2016. 3.5~2016.3.6

課題①: 活動と参加についてどのようなイメージを持っていますか?

- OTが中心なイメージ(地域包括ケア)
- Fa・CM・RHスタッフの協力が必要
- 利用者ごとのモチベーション → ADL・IADL
- 活動=個人 → 参加=周囲 → 外部への関わり
- 機能訓練から活動・参加に広がるイメージ
- 活動 → 地域活動 参加 → 社会参加 (ボランティア等)
- 家の中ではなく外へ出ていくイメージ

中から外へ出ていくイメージ

課題②: セラピストが活動・参加に向けてどのような視点や働きかけが必要か?

- 利用者ごとの希望を進めていく。趣味などを把握(より深く知って)
活動 → 目標を持って

◦ 多くの選択しを提案 X

◦ 参加 2. 地域への
→ グループ活動等の知識も各職種の方々が知っておくことが大切

地域へのはたらきかけ

1. 地域(どのようなことをしてるか)情報収集し。

◦ 以前していたことを活動・参加につなげる X

◦ 他職種との連携で目標を立てて、何が足りないかを明文化していく。

活動・参加についてのグループワーク

大阪府訪問リハビリテーション振興会実務者研修会
2016.3.5~2016.3.6

課題①: 活動と参加についてどのようなイメージを持っていますか?

- ・利用者から地域で生活していく上で「いきがい」や「やりがい」を感じることが大事。
- ・活動は自分から行くこと。参加は人との「かわり」(家の中にもインターネットでつながりを作る)。
- ・「結びつけ」(足す)は難しい。具体的に思っている人が多いのでは。
- ・活動は「家」参加は「外」のイメージ。
- ・活動はADL、参加は役割。一直線だとよい。同時進行が理想。
- ・楽しい感じ。本人の意欲・気持ちが大変。意欲疎遠ができてよい人は難しい。
- ・活動は「能動的」身近なこと。参加は「地域や周辺環境を知ること」(より)とよいこと。

課題②: セラピストが活動・参加に向けてどのような視点や働きかけが必要か?

- ・気持ちよくさせることが難しい。また人のコミュニケーションで「かまゆい」(自分)の立場にたつてどうしてほしいか。
- ・地域にどのようなところがあるか。他職種連携も必要。情報収集も自ら行っていく。
- ・押しつけにたつたように。
- ・家にもつてくる人に対して。できることをタイミングに合わせて外に目を向けるようにしてあげる。
- ・個人の生活歴を知る。
- ・病院のスタッフに対して教育も必要。
- ・興味・関心フェロクシート。
- ・課題の解決も必要だが、活動・参加にたつていけるには「家族」(ケアマネ)にも「かわり」が必要。
- ・通所を終るも必要。
- ・「コト」の受容も必要。達成感もたつてもらうように。

活動・参加についてのグループワーク

大阪府訪問リハビリテーション振興会実務者研修会
2016. 3.5~2016.3.6

課題①: 活動と参加についてどのようなイメージを持っていますか?

- 活動 ... できるまでやるが当たり前。目標になるもの。家族の理解が必要。個人が行うこと。
- 参加 ... 気持が大きい影響。自分の意志+周りが望んでいること、周りをまよこすもの。
- 両方とも個別性が影響
- 家族や周りの協力が大きく影響
- 小児と高齢者では活動・参加の考え方が異なる?

課題②: セラピストが活動・参加に向けてどのような視点や働きかけが必要か?

- 本人、家族のニーズ、個別性を尊重 (趣味・性格)
- 思いをくみとることが必要 (家族の)
- リハビリの目的をお互い納得いく話し合う。
- 本人と家族の希望をきき、専門性を活かして実現可能性を評価し、決定する。
(リスク管理)
- 丁寧な説明と丁寧な声かけ、どのような意味が子どもが把握すること。
- 本人が中心でやること。

活動・参加についてのグループワーク

大阪府訪問リハビリテーション振興会実務者研修会
2016. 3.5~2016.3.6

課題①: 活動と参加についてどのようなイメージを持っていますか?

- 活動はADL主体の動作としてとらえていて、しなければいけないこと
- 参加は自主的に取り組む趣味のこと
- 参加は家族の負担にもつながらず、安心できる。
DSの促しによる
- 常に利用者がしたい時にしたい事をする
- 公共交通機関の利用に介助者からの介助で不安要素に対して介助をしてもらう。
- 趣味を利用者さんの参加だけでなく終末期の方に先にありものもつながらず。(ブログ) → 外はつながりてきもの(ネット)
- 人それぞれ異なる
- 参加は外に出て何かをする場や、人がいて何かをする目的がある。生きていくQOL向上につながる。
- 活動・参加を促す時にキウ訓継続としてのイメージが強く促しにくい。
→ 利用者さまのイメージとしてリハビリ = 機能回復向上へのイメージが強い(月2回リハビリ)
- ADLや趣味に対する取り組み(買い物、家事)は家族への負担も軽減する。
DSの役割
- 参加に関しては場所に関わらずに利用者さんのしたい事をした場所で行うこと。(ブログ、YouTube)
- 難病例や重症例に対する活動や参加をみいだしにくいと感じる。 → 1人1人の活動参加は重要

課題②: セラピストが活動・参加に向けてどのような視点や働きかけが必要か?

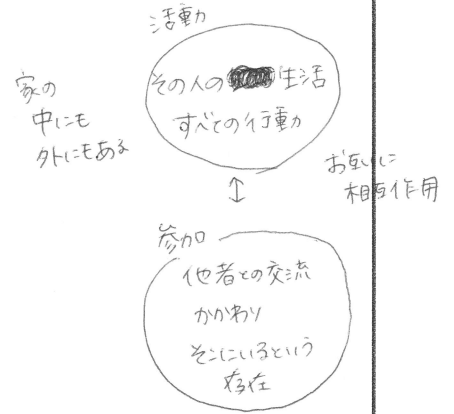
- 本人の意向を最も優先させる → 継続していく上で望むことを知り、能力・環境面についても考えていく必要がある。
サービスや地域連携に対して知識とコミュニケーション能力が必要となる
資源を知る 引き出す 視点
- キウ回復に目を向ける中で、他部門と連携して残存能力を基として生活で必要とする支援内容を考える機会となる。
- リハサラーでは具体的に示すことで次の部面への連携が図れる。
- 法律制度や働き方・時期・時間を考える必要がある。
- まねたりまねこんで利用者さまの望むことを援助して環境をつくり出す取り組みをすすめる必要があると感じた。
働きかけ
食生活の変化、指導
- アイデアを引き出しをたくさん持つことが大切。(その環境に合ったもので)
- 障害がある人がその人らしく自宅で生活しているケースをたくさん知ることも大切
- 利用者さまの考え方や価値観を知り必要性を感じた。
- 活動・参加を促すと目標に向かう取り組みができてキウ回復が向かっていくことがあふ。
- 正しくこだわる姿勢に目的を達成するための手段を考へる。
- 人とのつながり、コミュニケーション能力をつかるとサポートできる。
→ 機能回復に特化しすぎずに残存キウを生かす取り組みができる。
- 本人の望むことを利用者の視点となりコミュニケーション能力を使って引き出して行くことも大切。
- 利用者さまの必要な環境に合わせて自ら取り組むことも含めて関わりを巻き込んで取り組む
- ケースごとの情報提供を行う上で相手の立場になり共有し伝わりやすいようにまとめる

活動・参加についてのグループワーク

大阪府訪問リハビリテーション振興会実務者研修会
2016. 3.5~2016.3.6

課題①: 活動と参加についてどのようなイメージを持っていますか?

- 本人の意思がないとどうにもならないもの。苦勞する面もある
個人によって どのような活動か参加を設定していくか
希望がない人に対してどのように提供していくかが難しい
- 町内の活動に参加。家を出ていくこと。
身体キウによっては 料理をしたり家の中でできることも活動になる。
高住の場合 管理されているため とうゆう環境では限られた内容になる
- ADL・手芸などの動作すべてが活動か
他者と一斉の空間にいることが参加
- 活動か: その人が行う行動か、行為
参加: 他者との交わり、関わり というイメージ
- ご本人の身体キウを言平価した上で できる・しているを定着させてから
活動かをかくつ ⇒ 参加ができる
家の中のことをしっかりできる → 活動か・参加につなげていく。ご本人のしたいと、ふたつは「個人因子」を考慮する



課題②: セラピストが活動・参加に向けてどのような視点や働きかけが必要か?

- 本人の意思がないとどうにもならないので どう関わっていくかが大事。
できるのにはしない、完全には出来ないとはいけない。
→ 今は途中だから 少しずつ ^{前向きに} 取りかかっているようにしていく。
多職種種々の連携・協力を集める
- 地域のコミュニティなどを自身が知っているか、関わっているか
CMを巻込んで紹介、など 周りの資源を知る
ご本人がどんなことを望んでいるか 福祉用具や環境を設定してできるようにする
- 本人がしたいこと、きょうせがあることを探っていく) 共通性・方向性をみつけていく
周りはどんなことをしてもらいたいのか
ボランティア、地域の情報と探して伝えていく
拒否的な時季は理由を考える
- どのような活動かがあるのか知る —— 利用者のニーズを知る
行政や包括と連携をとる
情報を共有する
- 互いの部分は長く続けられるものが多い可貴性がある
ボランティア活動には何があるのかなどを知る
STだけではふたつともならない部分が多く連携が必須。
自分のしていることを形にして人に伝えていく。
本人の楽しめる場を作るのが 家の方の介護負担軽減につながる
デイサービスに出向いて 家の中でおわらずに外へつなげていくことが活動か・参加につなげる (嚙み食1食 家→デイサービス)

◎ 情報共有が大事

最新の情報に更新していく

THとしての個人の言平価から地域づくりまで

一人ではできないことも連携して周りと作り上げていくという視点と忘れない

自分の職種種々の役割が何かを伝えていけるように発信を続けていく必要はない

活動・参加についてのグループワーク

大阪府訪問リハビリテーション振興会実務者研修会
2016. 3.5~2016.3.6

課題①: 活動と参加についてどのようなイメージを持っていますか?

- ADL・APDL・薬
 - 他人しかなかった動作が参加。 けいこ打つ。 ネット/iPadの532 泣きは参加
 - 生活する如く必要。 本人、家族、社会
 - 要 必要性が低い。 行く。 求められている人は活動性が高い。 家の中での役割
 - 社会的不利はお金で解決できる。 ← 人それぞれ違う。 会社でなければ自分のペースで参加
 - 高年齢。 参加はどのくらい必要なのか? がわかりにくい。 (このくらいを知らなければネットワークが必要)
 - おれおれみられない状態で、どこまで落ちたかわからない。
 - うたかたはうたかたはどやになる人もいる。 毎日11:00から12:00という人もいます。 ← 制度があっても勝手にやる。
 - おれおれ組むのか?
- おれおれとは決められてない。

課題②: セラピストが活動・参加に向けてどのような視点や働きかけが必要か?

- 職種同士、お互い、何をしたいかわからない。
- 病気のことを知らなければ、その人に言えは何かあるというように思ってもらえないで信頼されない。
- 担当PTには言えないというのは、失敗。
- その人を知る。 気づかせる。
- 本人のつらかりをちゃんと伝える。
- おれおれ1-1。 ← かし、11:00になる。

